

「大回り」甚だ不便改善図る



↑北谷町(右)と馬場曲輪(左)を繋ぐ帯曲輪(弘化二年忍城図)

忍城大改修の一環として設置された新たな曲輪が、家臣団の中で話題を呼んでいる。

今回の大改修に先んじて、阿部家の家臣団から漏れ聞こえてくる声のなかに「馬場曲輪や矢場から北谷町や内行田へ向かうには、城郭の南側を大回りせねばならず、甚だ不便だ」という要望があった。そうした声に耳を傾ける形となったのが、東西に110間(約200メートル)の長さにわたる帯曲輪(おびぐるわ)の新設であろう。

「帯曲輪」姥島北に新設 馬場曲輪・北谷町間を直通で

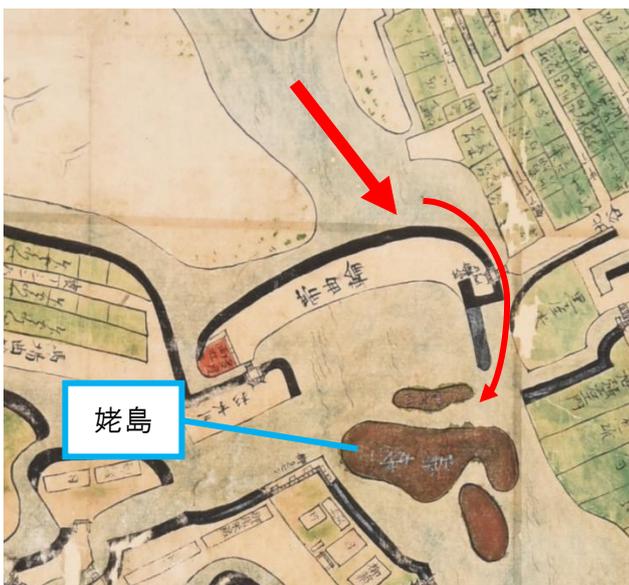
忍城かわら瓦版ばん

発行所：
埼玉県行田市本丸
17-23
発行人：
行田市郷土博物館

帯曲輪は、馬場曲輪と北谷町の間にある堀に新設されたため、ここに掛かる橋は両曲輪の架け橋となったわけである。帯曲輪自体には武場地や役所は置かれず、道としての役割が備えられている。

水量調整機能にも期待

しかし、この曲輪の役割はもうひとつある。忍城の堀に忍川の流れがそそぐ先には、狸島(たぬきじま)と姥島(うばじま)があるが、近年に至るまで狸島は小さくなっており、姥島もかつては南北に細長くひとまとまりだったものが、現在は個々の島に分かれるまでに削れてしまった。いずれも直接堀に流れ込む忍川の水流量によって徐々に浸食されて、景観が変容してきたのである。そうしたなかで新設された帯曲輪は、忍川が堀にそそぐ玄関口に設けられた。これによって忍川の水はまず帯曲輪に衝突して、それから帯曲輪の東にある注ぎ口から堰で水量を調節されつつ堀に流れ込むようになった。そのため帯曲輪と北谷町の間には掛かる橋の下は、このほか水が渦巻き、まるで地獄のようなあり様だと口にする者がいるとも耳にする。そのうちに「地獄橋」とでも名付けられてもおかしくないだろう。



忍川の水流に耐えるため、帯曲輪の北側が分厚く、高い土居が設けられているのはこのような理由があったのだ。

(城下在住)
↑忍川の流入経路(矢印)(弘化二年忍城図に加筆)

足軽派遣 信頼の迅速対応

人宿新町屋

忍城下 新町の看板が目印

急なお出掛けにもしもの場面に

用心棒請負

御代金他
委細相談